



●安楽寺全景

●八角三重塔拝観料／300円(小・中学生100円)

●八角三重塔拝観時間／夏季8:00～17:00(3月～10月末)
冬季8:00～16:00(11月～2月末)

※本堂等のお参りについては、この限りではありません。(無料)



ご案内

塩田平四国霊場札所めぐり

今から約300年前の元禄年間、この地「塩田平」のお寺や御堂に四国八十八ヶ所霊場の仏様が迎えられ、お遍路さんで賑わいました。近年この巡礼が復興され、改めて注目を集めています。詳しくはお寺までおたずねください。

安楽寺に勧請された
仏様は次の通りです。

●九番	釈迦如来	法輪寺	徳島県
●十五番	不動明王	国分寺	徳島県
●二十四番	虚空蔵菩薩	最御崎寺	高知県
●二十六番	薬師如来	金剛頂寺	高知県
●四十一番	十一面観音菩薩	龍光寺	愛媛県
●五十三番	阿弥陀如来	円明寺	愛媛県
●七十番	馬頭観音	本山寺	香川県
●八十番	十一面千手観音菩薩	国分寺	香川県



宗教法人 曹洞宗 **安楽寺**

〒386-1431 長野県上田市別所温泉2361 <http://www.anrakuji.com>
TEL0268-38-2062 FAX0268-38-2133

54496

●紋様は、八角三重塔水煙(部分)。仏塔の屋根の頂部を飾る相輪の部分で、九輪の上方にある。一般に火災を忌んで水煙と呼んでいる。





安楽寺本堂

安楽寺

建長(鎌倉の建長寺)と塩田(安楽寺)とは各々一利により、或は百余衆或は五十衆、皆これ聚頭して仏法を学び、禅を学び、道を学ばんことを要す云々。これは大覚禅師語録(建長寺開山蘭溪道隆)の一節である。これにより安楽寺は、鎌倉時代中期すでに相当の規模をもった禅寺であり、信州学海の中心道場であったことがうかがわれる。鎌倉北条氏の外護によって栄え、多くの学僧を育てていたこの寺も、北条氏滅亡(1333)後は、寺運も傾いて正確な記録も残らないが、国宝、重要文化財等数多くの鎌倉時代の文化遺産を蔵して、信州最古の禅寺のおもかげを残している。

また、当寺は安土・桃山時代に勅特賜・大光智勝禅師高山順京大和尚により、同じく禅を標榜する曹洞宗に改められ、現在に至っている。

安楽寺前開山 樵谷惟仙和尚像 (重要文化財)



惟仙は、鎌倉時代の中
期、宋に渡って修学し、
寛元4年(1246、鎌倉
時代)鎌倉建長寺開
山蘭溪道隆と同船帰
朝して後、安楽寺を開
いた人である。

安楽寺前二世 幼牛恵仁和尚像 (重要文化財)



恵仁は幼牛と号し、惟
仙にしたがって来朝し
て、安楽寺二代となった
中国僧である。この像も
墨書銘により、嘉暦4年
(1329、鎌倉時代)に造
られたことがしられる。



この種の建物の代表的なものである。

経蔵 上田市指定文化財

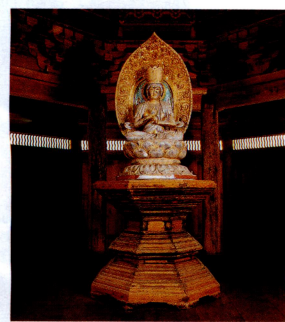
寛政6年(1794、江戸時
代)宇治の黄檗山萬福寺
から購入した鉄眼の一切
経を保管するために建て
られた方3間、ぬりこめ、宝形造、銅版葺の経蔵で、



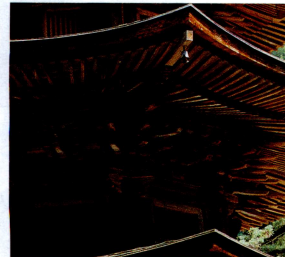
輪蔵(経蔵内部)
上田市指定文化財
傳大師によって考案され
たといわれる廻転式書棚の
ような輪蔵は、八角形で看
経(経を読むこと)の便に造
られている。この輪蔵を廻
すれば、だれでも看経と同
じ功德にあずかることが出来るといわれている。因に
輪蔵には古来から必ず傳大師をまつる習慣がある。



国宝 八角三重塔



●内部

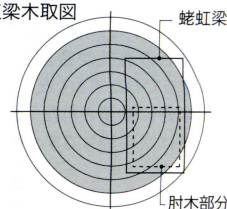


●結組

国宝八角三重塔の 建立年代について

建立年代については、鎌倉時代末
期から室町時代初期までの間とい
われてきたが、平成十六年、奈良
文化財研究所埋蔵文化財センター
古環境研究室の光谷・大河内両
先生の調査の結果、三重塔用材の
伐採年代は正應二年(1289)と
判明、1290年代(鎌倉時代末期)
には建立された、わが国最古の禅
宗様建築であることが証明された。

●蛇虹梁木取図



●伐採年が判明した蛇虹梁

塔は本堂の裏を登った山腹にあり(全景写
真参照)松の緑に映えて、重厚なたずまいが
どっしりと空間を支えている。建立年代は、従
来鎌倉時代末期、又は、室町時代初期といわれ
ていたが、用材の年輪年代測定により、鎌倉時
代末期であることが判明した(右説明参照)。

建築様式は、禅宗様(鎌倉時代に宋から
禅宗に伴って伝来した様式で唐様ともいう)
八角三重塔で、初重に裳階(ひさし又は霧よ
けの類)を付けた珍しい形式であるうえに細
部もまた禅宗様の形式からなり類例が少ない。

平成23年には、約60年ぶりに屋根(柿葺)
の全面葺き替え、及び約90年ぶりに相輪(塔
頭部)の補修が行われた。